

春湖台新聞

2008年
11月15日 土

発行
釧路市立博物館
〒085-0822 北海道
釧路市春湖台1-7
電話 0154-41-5809
FAX 0154-42-6000

山本作兵衛展開幕

北と南の博物館交流第一弾



山本作兵衛の炭鉱記録画に見入る来館者 15日 釧路市立博物館

筑豊・田川から 炭鉱記録画二二〇点余

田川市石炭・歴史博物館(福岡県・安藤龍生館長)に所蔵されている炭鉱記録画を展示する交流企画展「炭坑(ヤマ)の語り部 山本作兵衛の世界」が十五日、釧路市立博物館で開幕した。初日から多くの市民が訪れている。

これまで、釧路市立博物館と田川市石炭・歴史博物館は、交流を進めてきたが、その成果として炭鉱記録画をテーマにした企画展を開催することとなった。

交流は〇七年一〇月、田川市石炭・歴史博物館の安藤龍生館長と福本寛学芸員が、釧路市立博物館主催の石炭基礎講座に参加し、雄別炭鉱跡を

探訪したことから始まる。田川市は「炭坑節」発祥の地として知られる。その歌詞にもある煙突(二本煙突)が築百年を迎え、また博物館の

開館二五周年であることから交流企画展「炭坑(ヤマ)の語り部 山本作兵衛の世界」の開催、おめでとう

ございます。田川市石炭・歴史博物館では作兵衛氏作品五百八十四点を保存しています。作兵衛氏は、写真がない時代に、墨絵などを駆使し、生活ぶりや採炭の様子を細かい描写で記録した点では、貴重な記録絵です。中でも、坑内の様子や説明は実に正確です。記録絵

田川市石炭・歴史博物館 安藤龍生 館長

メッセージ

は、伝えられる機会が少なかった炭坑の姿を克明に残したものです。田川市は民間組織による作兵衛氏の日記を解説する活動が盛んです。プライベートの問題はありますが、記録絵に加える作兵衛氏の炭坑への思いも明らかになることでしょう。今後石炭をキーワードにして、フォーラムなど連携した企画ができればと思います。

十一月一日から二月七日まで、所蔵する山本作兵衛(一八九二〜一九八四)の記録画の原画五八四点を二期に分けて展示している。釧路市立博物館は、デジタルデータを借り受け、複製画二二〇点あまりを展示することとなった。会場は博物館一階マンモスホール、入場無料。一六、三〇日には講演会や映画会も予定されている。開館時間は午前九時半から午後五時まで。毎週月曜日と十一月二三日(日)と十二月一七日(水)は休館する。問い合わせは博物館〇一五四・四一・五八〇九。

炭山之風

筑豊からヤマの灯が消え三〇年が過ぎ、当時の記憶も薄れている。しかし日本では今でも釧路で、炭鉱が稼働している。過去と現在を結び、田川市石炭・歴史博物館と釧路市立博物館が交流をはじめた。今回、その仲介人となったのが、山本作兵衛(一八九二〜一九八四)である。かつて、日本最大の産炭地であった筑豊炭田。作兵衛はこの地で生まれ明治・大正・昭和の炭坑を渡り歩いた。絵の余白を文章で埋める独特の技法を用いた彼の炭坑記録画は、実験に基づいた詳細なヤマの記録である。山本作兵衛は炭坑を退職後、六五歳から炭坑記録画の制作に取り組んだ。「消えゆくヤマの姿を孫たちに残したい」その一心で絵筆を振るう作兵衛。「私の絵には一つだけ嘘がある。坑内はこんなに明るくない」と述べると、脚色が一切ない作兵衛のこだわりは、人々の共感を呼んでいる。炭坑の語り部・山本作兵衛が伝える生き生きとしたヤマの姿は、田川と釧路、過去と現在をつないでくれると信じている。(田川市石炭・歴史博物館 福本寛)

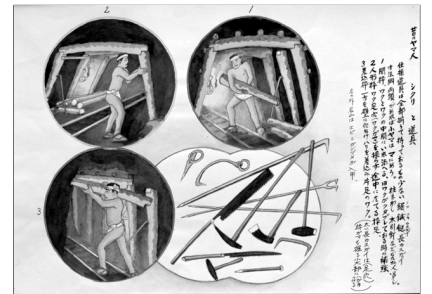
山本作兵衛の世界を読み解く

田川市石炭・歴史博物館学芸員 福本寛

明治期では男女二人一組で採炭する。筑豊では薄い炭層が多く炭丈が低い場所では座ったり寝たりして掘っていた。



■炭丈六十センチ以下の切羽での採炭



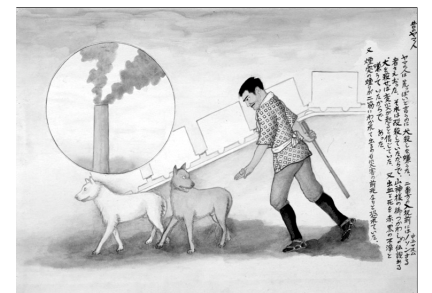
■仕線と道具

杵を用い、坑道を保持するのが仕線。天盤を支える木杵は場所によって形態も様々。また細工する道具も用途に応じて多種多様。



■米騒動(1) 羽釜合戦

当時の世相も描かれた炭坑記録画。筑豊のヤマをも巻き込んだ米騒動は作兵衛自身も印象が強かったらしく詳細に描写されている。



■犬殺しと煙突の煙り

ヤマの仕事は危険なので、炭坑夫は信心深い。山の神の使い(犬)を大事にし、煙突の煙が分かれると縁起が悪いと仕事を休む。

作品は田川市石炭・歴史博物館蔵

炭都・田川

記者ノート

日本の近代史に大きな役割を果たした石炭。中でも筑豊炭田(福岡県)は、北九州市にあった八幡製鉄を背後から支え続けた。今も筑豊地方に生きる人たちの誇りなのだ。中でも、筑豊炭田の中心だった田川市は北九州市の南に隣接する旧三井田川鉱業所の「炭都」。最も多いときで約十万人が暮らし、その多くが同鉱業所の関係者だった。五木寛之の小説「青春の門」の主人公、伊吹信介が生まれ育

った街と言えればわかりになるだろう。

ヤマの軌跡を克明に

炭坑記録絵師・山本作兵衛。明治から昭和にかけて、筑豊の炭坑(ヤマ)を炭坑マンとして渡り歩いた。還暦を過ぎて「子孫に炭坑の様子を残したい」と絵筆を握った。生活、採炭、選炭、炭鉱住宅(炭住)…。写真の代わりに墨絵で「炭坑のある風景」を残した。明治、大正時代の興隆期から昭和四十年代の閉山にかけて、炭鉱がたどった軌跡を作兵衛氏の墨絵は浮き彫りにしてくれている。

南と北を石炭が結ぶ

北海道と九州・筑豊地方は百年前から「石炭」というキーワードで、結び付いていた。旧三井田川鉱業所の技師は、明治期に、技術を伝えるために、北海道に渡った。戦時中には、釧路炭田の炭鉱マンが国の施策で休坑を余儀なくされ、一部、筑豊炭田で採掘に当たったことも史実で明らかになっている。

十五日から、田川市石炭・歴史博物館が所蔵する作兵衛氏の作品のうち約二百点が、釧路市立博物館で公開される。国内唯一の坑内掘り現場がある釧路市。一方、筑豊地

方から炭坑が消えて三十年以上が経つが、作兵衛氏の作品は隆盛を極めた「産炭地・筑豊」を今に伝えるものだ。釧路市民、いや、北海道民が作兵衛氏の作品を見て何を感じ、何を思うか。筑豊で報道に携わる者として興味深い。

そして今、釧路市と田川市の博物館の両学芸員が、一通のメールを通して意気投合し、初の交流企画が幕を開ける。百年の時の流れを埋める「世紀を超えた交流」。作兵衛氏の絵画公開とともに、今後の両博物館の取り組みに注目したい。(西日本新聞田川支局長・佐伯浩之)

映画「炭鉱に生きる」上映

(語り 小沢 昭一)
講演「筑豊炭田と山本作兵衛」
(田川市石炭・歴史博物館 福本 寛氏)

11月30日(日)
午後1時30分～3時45分
釧路市立博物館 講堂
入場無料

博物館 0154-41-5809



炭坑の語り部
山本作兵衛の世界

「炭坑の語り部」山本作兵衛
田川市石炭・歴史博物館所蔵の
584作品をはじめ全収録

「山本作兵衛の世界」
展示図録

博物館受付にて
販売しています
定価 2,000円

刊行
田川市石炭・歴史博物館
田川市美術館

